

事例 1

表現意欲を高めるリーディング指導 (2 学年)

1 単元・授業改善の視点

(1) 授業改善の視点

中学校で用いる英語の教科書は新出文型を含む数行の英文が 1 ページごとに載せられ、それが 3 ページ或いは 4 ページで 1 つのまとまった内容を伝える構成となっている。今までは多くの場合 1 時間で新文型を学習し、次の 1 時間でそのページの内容を読み取る「1 セクション 1 アワー」の指導過程をとってきた。しかしそのような指導過程を重ねるうちに次の点が気になってきた。

生徒は 1 時間に触れる英文の量が少ないためか、一語一句を日本語に直し、それが「英文を読むこと」だと考えている。そして生徒は一つ一つの英文を日本語に訳せるようにはなっても、全体として何がいわれているのか理解しようとせず、また考えようとしなくなっている。

英文を読むことは一語一句を日本語に置き換えることではなく、書き手が伝えようと意図したことを理解することである。中学校教科書の本文は量的に少なく深まりにくいのが、少ないなりに書き手からのメッセージがあり、それを読み取り自分なりの考えをもつ「自立した読み」ができるような援助をしていきたい。そのために今までの「1 セクション 1 アワー」の指導過程ではなく、時には本文全部を生徒に提示しトップ・ダウン方式を取り入れた読む過程を通し、生徒がまとまりのある英文の概要や要点をつかむことができるようにするとともに、テーマについて考え互いに意見を発表したりする場面を設定しようと考えた。

本題材はオーストラリアから ALT がやってくることを聞いた生徒たちのとまどいを描きつつ、ALT が日本語で挨拶を始めたことから、外国を訪れたり外国人と接する時は、片言でも外国語を使って積極的にコミュニケーションをしようとする姿勢が、互いの理解にとっては大切であることを訴えた題材である。指導にあたり次の手順をとることにした。

ア 本文の読解に入る前に、新しい言語材料の学習を済ませておく。読解はトップ・ダウン方式の Pre-reading、In-reading、Post-reading の順に指導過程を組む。日問日答、英問英答を通し内容の理解を深める。

イ 内容を理解しやすくするため、ごく一部ではあるが本文を書き直し、ALT 吹き込みのテープを作成する。単語が読めない生徒も耳から内容を推測し読もうとする意欲づけとなるよう、テープを聞きながら本文に目を通す指導過程を取り入れる。

また、教科書には多くのさし絵が使われており、ともすれば英文を読まなくとも内容を理解できることがある。これを避けるため、教科書は使わず、教科書のタイトルや日本文による題材の紹介文、さし絵の一部を削除した本文プリントを作成し生徒に配布する。

ウ 読み取った主題に対する自分の考えを英語や日本語で表現する場面を工夫する。

(2) 単元名 New Crown English Series Book 2 Lesson 7 An Australian Teacher

(3) 指導目標

片言でも外国語を使って積極的にコミュニケーションをしようとする態度が大切であることを理解し、外国人や文化に接する際の心構えについて考える。

2 指導計画（総指導時数 2時間）

観点	活動	評価規準
関心 意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ Pre-reading の活動 ・ 絵から本文の内容に対して自分なりの予想を立て、読むことに意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりに物語の予想を立てられる。 ・ 発表から読もうとする意欲がわいたかどうかを評価する。
理解 の 能 力	<ul style="list-style-type: none"> ・ Skimmingの活動 ・ 本文中のキーワードを探ることにより、本文の概要を予測する。 ・ 本文の内容に対する質問の答えを3つの中から選ぶことにより、概要をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しくキーワードを探し出す。 ・ 概要を把握できたかどうかを評価する。
理解 の 能 力	<ul style="list-style-type: none"> ・ Scanningの活動 ・ 本文の内容に対する質問に答えることにより要点を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問に正しく答えることができる。 ・ 日本語で挨拶を始めたALTの気持ちを考えることができたかどうか評価する。
表現 の 能 力	<ul style="list-style-type: none"> ・ Post-readingの活動 ・ ALTの気持ちを考えながら、ALTのメッセージを英語で書く。 ・ 外国を訪れる時の心構えについて自分なりの考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の内容を踏まえて積極的に外国の文化や人と接しようとするALTの気持ちを表現できたか評価する。

題材文

Mr. Mori : Listen, boys and girls. I have some good news for you.
An Australian teacher will come to this school next Monday.
His name is Bob Smith. He will teach this class with me
until October.

Kumi : How old is he ?

Mr. Mori : I don't know. You must ask him.

Hiroshi : Can he speak Japanese ?

Mr. Mori : No, he can't.

Ken : Will Mr. Smith speak only in English ?

Mr. Mori : Yes, he will. So you must speak English too .

Kumi : Oh, no ! We can't.

Mr. Mori : Don't worry, everyone.

If you try, you can communicate with him. You can use
gestures too.

Mr. Smith : Minasan, Kon-nichiwa. My name is Bob Smith. I'm from
Brisbane. It's one of the big cities in Australia.

Kumi : Why did you begin your introduction with a Japanese greeting
Mr. Smith ?

Mr. Smith : When we visit other countries, we have to learn a little of
the language. It's polite.

Kumi : I see. Did you learn those Japanese words in Australia ?

Mr. Smith : Yes, and I'm going to learn a lot more in Japan.

3 授業の実際 (概要と分析)

(1) Pre-readingの活動

T: この絵を見てください。これはある授業の
一場面の絵なのですが、なぜ生徒はこのよ
うな表情をしているのでしょうか。あなたの
予想を自由に発表しましょう。

S: 先生の質問にまちがえて答えた。

S: 授業中にあてられてわからなくて困っている。

S: 頭がかゆい。 S: 猿のまねをしている。



教科書付属のピクチャーカードの一枚（ALT が来校することを聞いて困っている表情の生徒を描いたもの）を提示した。物語を予想させるとともに、読もうとする意欲づけをねらったが、内容と全く関係のない予想をする生徒も多数おり、絵を使用することの難しさを感じた。

(2) Skimming の活動

本文プリントを配布し Skimming に関係する新出単語 (begin, greeting, learn, try) を導入した。いくつかの既習の類義語を紹介し、絵から単語の意味を類推できるようにした。

T: テープを聞きながら本文を読み、一番大切だと思われる単語を一語書きなさい。

communicate (8名) worry (7名) will (4名) Australian (3名)

ALT 吹き込みのテープを聞かせながら、一定のスピードで本文全体をとばし読みさせた。テープを録音した時はゆっくりと読んだつもりではあったが、実際に授業で使ったら、生徒には少し速かったように思われた。しかし、台詞で大切なところは強めて読んでいたため、communicate やworry など未習であってもキーワードとして挙げる生徒が多かった。

T: もう一度本文を黙読し、次の質問に対する答を3つの中から選びなさい。

① What is Bob Smith?

- ・ He is an Australian teacher.
- ・ He is an American teacher.
- ・ He is a Canadian teacher.

② What language must Kumi speak to Mr. Smith?

- ・ She must speak Japanese.
- ・ She must speak English.
- ・ She must speak English and Japanese.

③ What did Mr. Smith say when he came to Kumi's class?

- ・ Hello, everyone.
- ・ Nice to meet you.
- ・ Minasan, Kon-nichiwa.

① He is an Australian teacher. ② She must speak English.

③ Minasan, Kon-nichiwa.

ここで4人グループを作らせ、助け合って答を選べるようにした。比較的わかりやすかったのか、ほとんどの生徒が短時間で答えられた。答を確認する時に根拠となった英文も発表させた。

(3) Scanning の活動

Skimmingで導入した以外の新出単語 (news, worry, if, communicate, polite) を導入した。このうちnewsとcommunicate は日本語にもなっていることから発音のみを

扱った。

Scanningでは要点をとらえる質問として5つ、行間を読み取る質問として2つを用意した。要点をとらえる質問は英語で提示したが、質問の意味を確認してから取りかからせた。また5つの質問を一度でなく2回に分けて提示した。またここでも4人グループを作らせ、互いに教え合うことを奨励した。

T: 次の質問に英語でも日本語でもよいので答えなさい。

- ①When will a new teacher come to Kumi's school?
- ②Will the new teacher stay in Kumi's school until July?
- ③Are all students happy when they hear the news?
- ④How did Mr. Smith begin his introduction?
- ⑤Where did he learn Japanese?

生徒の反応

- ①Next Monday. 次の月曜日。
- ②No, he will not. No, he will not. Until October. 10月までいる。
- ③No, they aren't. Yes, they are.
- ④Minasan, Kon-nichiwa. He used Japanese. He speak Japanese.
- ⑤In Australia. オーストラリア。

全部英語で答える生徒、問いによって英語と日本語と分けて答える生徒さまざまであった。文法ミスのある答を発表する生徒もいたが、要点をとらえることが目的なので要点があっていれば賞賛した。③でYes と答えた生徒が多数いた。これは、本文でALT を迎える不安な気持ちを伝える台詞がKumiのOh no ! We can't. の一行だけであったことや、自分の体験からALT が来ることは喜ばしいことと判断しYes と答えたものと思われる。

T: ①森先生の考えが最も出ているのはどの部分ですか。その部分を抜き出して日本文に直しましょう。

- ②スミス先生は日本語で挨拶を始めましたが、なぜそうしたのでしょ。あなたの考えを自由に発表してください。またそれはどこからそう判断しましたか。

- ①If you try, you can communicate with him.
- ②When we visit other countries, we have to learn a little of the language. It's polite.

S: スミス先生は日本語を話せることを証明したかった。 S: 礼儀だから。

S: あいさつだけは日本語でしたかったから。

S:日本語を使うことによってみんなの緊張をやわらげるため。

S:生徒と早くなじめるように。

初めは「日本語を話せるから」「礼儀だから」など表面的な意見が多かったが、発表させていくうちに相手を思いやるスミス先生の気持ちを表現する者が増えた。

T:クミはスミス先生とのインタビューの後、スミス先生を紹介する新聞記事を書きました。本文を読みその記事を完成させましょう。

This Is Our New Teacher !

Hello,
I want to make
friends with *everyone*
soon. So, please
speak to me.
Yokoshiku!

Do you know him?

He is Bob Smith, our

new English teacher.

He is from Brisbane, in
Australia.

He will teach us until October.

We are very lucky because he can
speak Japanese a little.

He studied it in Australia.

He says, " I'm going to learn
a lot more in Japan. "



It's nice, isn't it? Now let's have a good time with him !

要点を確認するため、読み取った内容を視点を改めて英文に書き直させた。ワークシートを配布した直後、生徒は最初ふきだしの方に興味を示し、「だるまのような部分は何?」と聞く者も出た。

6カ所に適語を書き入れ新聞記事を完成させる課題である。簡単にしたつもりであったが、完成させるまでの時間にかかなり個人差があった。その理由として、ア生徒はこのような形式の課題にあまり慣れていない、イ全て英語で与えられたため特に英語を不得意とする生徒は戸惑ってしまった、等考えられる。

今後の課題として、このような形式の課題に抵抗なく取り組めるような指導の在り方が残される。

(4) Post-reading の活動

T:クミは新聞にスミス先生から全校生徒へのメッセージを紹介することにしました。先生になったつもりでふきだしに自由にメッセージを書きましょう。

生徒は必要に応じて和英辞書を引いたり教師に表現方法を質問したりしながら熱心に取り組んだ。

How do you do?
I am looking
for ward to
seeing you
Let's make friends
with me.
I like Japan!
and I like you!

Minasan.
Kon-nichiwa.
I'm going to
learn a lot more
in Japan.
I want to sperk
you.

Hello boys and
girls.
I will teach us
until October.
If I get lose in school
Take me please.

I love
everyone
Are you free
when you are
free
play together

Hello. My name
is Bob Smith.
I will be at school until
October.
Minasan, Yoroshiku.

My name is
Bob Smith.
I believe in
ghosts
I like
Japanese.
sushi

Hello, everyone.
I am Bob Smith. What's
your's names? I can
speak japanese a little. I like
japanese very much. but,
japanese is very difficult.
isn't it?
Thank you!

Holle everyone
My name is
Bob Smith
I will study Ja
panese culture.

: Hello
: My name is
Bob Smith
: I can speak
Japanese a little
for example
Minasan, Konnichiwa
: I'm going to learn
a lot more in
Japan



本文内容からALT の人柄を考え、「このくらいの日本語は言えるはず」と日本語の挨拶を書き加える生徒、積極的に生徒と交わろうとする気持ちを書く生徒、自らの体験から日本語を学ぶことの難しさを訴えるブラジルからの帰国子女など、それぞれが独自の観点から個性的な英文を書いた。ワークシートを回収し、後日いくつかの作品を印刷して配布することを告げると、「自分のものをぜひ載せてほしい」という声も多く聞かれ、自分なりの表現に満足している様子が見えられた。

T: スミス先生は “When we visit other countries, we have to learn a little of the language.” とおっしゃいましたが、もしあなたが “When we visit other countries, we have to _____ (あるいは we have to learn _____).” と言うとしたら何と言いますか。英語で書き、理由を日本語で書きましょう。

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to try English.

理由 (why?)
 英語で自分にてき英語のイテ答がよい

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to have many friends.

理由 (why?)
 せ、か、さ、た、から、い、人、を、人、と、友、ま、に、な、り、た、い、ら、ぬ、
 ち、か、う、同、の、人、と、も、仲、良、い、な、り、た、い、ら、ぬ、

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to examine the country

理由 (why?)
 その国のことについて調べる必要がある。国にいくと色々なことがわかる。

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to learn culture and eat food.

理由 (why?)
 日本は文化や食べ物にとてもおもしろい。

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to be careful

理由 (why?)
 さ、ま、ま、の、こ、ろ、に、い、く、と、い、ろ、い、ろ、の、こ、と、に、か、ま、あ、ら、ね、ば、い、け、な、い、

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to Speak countries people.

理由 (why?)
 その人達が自分と話をできるように話せるから。

My Opinion
 When we visit other Kenya countries,
 we have to study sun hill

理由 (why?)
 ケニアに行くと自然がきれいなところや動物園などにいけるから。

My Opinion
 When we visit other countries,
 we have to learn a little of the life

理由 (why?)
 生活や文化や習慣など、その国のことを少しは知ることが出来るから。

課題を与えると「どこへ行くのか。それによって答がちがう。」という声があがった。そこで「その方が書きやすいなら、other countriesの所に特定の国名を入れて書きなさい。」と指示を出した。文法ミスはあるものの、外国の文化を学びたいという意見、コミュニケーションのためその国の言葉を学びたいという意見が多かった。その後ペアで互いの意見交換をさせた。

(5) 授業を終えての生徒の感想

- ・進み方が速すぎた。もう少しゆっくり授業をしてほしい。(10名)
- ・少し難しくも感じたけれど楽しかった。おもしろかった。(7名)
- ・内容は以前よりも読み取れた。分かりやすかった。(8名)
- ・あまり難しい単語がなかったから読みやすかった。(3名)
- ・基本文の助動詞が頭の中でごちゃごちゃしていて区別できない。(3名)
- ・英語の勉強だけではなく外国から来る先生はどのような思いで来てどう思っているのかをいろいろ考えられてよかった。
- ・外国人とのつきあい方がわかった気がする。礼儀や習慣はちがうけど、それなりに私もいろいろな外国人と友達としてつきあいたいと思った。
- ・ほかの国に行く時は最低でもその国の言葉を少しは知っておくべきなんだと思った。

4 考察

主題についてより深く考えられるよう、教科書本文を一部書直し発問を考えて授業に臨んだ。しかし実際に行ってみるとまだ書き加えなければならないところもあったように思われる。例えば scanning の段階で ALTを迎える生徒の不安な気持ちが十分理解されていなかったことが挙げられる。これはその気持ちを表す台詞がたった1行だけであったからだが、もう少し台詞を書き加えていれば生徒のつまずきも少なくすんだのではないかと思われる。

まとまりのある英文を読む時、生徒にとって障害となるものの一つに単語がある。今回の題材文では難しい単語は比較的少なかったので生徒の負担も軽かった。今後教科書を用いてまとまりのある文章を読む練習をする際には、できるだけ簡単な単語を用いて書き加え、その内容を脹らませる等の配慮が必要であると考え。例えば今回の実践例の他に、ALTのスピーチの内容を更に脹らませオーストラリアの文化を紹介する文を追加すれば、生徒もより興味をもって読むことができたかも知れない。

生徒は登場するALTの行動や言葉を日本語に直しただけなので、「なぜそうしたのか。」と聞かれても表面的な理解にとどまりそれ以上深く考えようとはしない傾向があるように思われる。自分の立場をALTに置き換えてメッセージを書かせた活動はイラストを用いたためか気軽に会話調を用いて取り組み、内容、量ともに当初予想していた以上の表現が見られた。ふきだしという線も何もない空間に自由に書かせたことが結果的に生徒の想像力を刺激し、自らの体験をも重ねながらより個性的な英文を書くことにつながった。これは生徒の思考力、判断力、表現力の能力の育成を重視している新学力観に基づいた学習指導の展開を図る際の改善の視点から、有効に機能する課題設定であったと考えている。

反面、内容理解のまとめとして新聞記事を完成させる活動では、簡単に終える生徒や予想以上に時間がかかってしまう生徒等、個人差が出た。これは提示された英文を完成させるという形式のため、自由に自分のペースで書くことができず能力差がそのまま出たためである。今後の課題として、英文だけでなく、日本文によるもの、そして一部を三択にしたものなど複数のワークシートを用意し、生徒が自由に選択できるような余地を残す工夫の必要性も認められた。

最後に、授業後の感想で「進み方が速すぎた。もう少しゆっくりと授業をしてほしい。」と書いた生徒が十名いたことを、謙虚に受け止めたい。今回は全員が同じ題材文、ワークシートを使って授業を進めた。分からないうちに先に進んでいることがあったかも知れない。今後は、題材文も一部新出単語の意味が書いてあるものもないもの、発問も英語のものと日本語のものなど複数用意し、個に応じるための更に細かい工夫や配慮をした授業過程を組んで実践に臨みたい。

(長岡市立南中学校 田辺 洋子)